



校長室から

甘利 尚之

11月15日(月)

11/11 ホタルの幼虫受け入れ式

11月11日(木)、「桜つつみホタル会」の方からの、「ホタルの幼虫受け入れ式」を行いました。



塩尻小学校では、平成8年より、この時期にホタルの幼虫を預かり、冬に間、餌となる「カワニナ」を与えながら各教室で育て、4月、川へ放流する(放流の会に参加)ことを続けています。



塩尻小学校の校章には、三匹の螢がデザインされています。この塩尻の地は、昔からホタルが有名であったようで、江戸時代には、「塩尻のホタル合戦」として近郷の人々が大勢見に来たそうです。堀越陽水、枅網用水、欠口用水、更にその支流と水路が多く、カワニナが生息するのに適した環境があったからではないかと言われています。今から、93年前の昭和3年の新聞に、この塩尻のホタルについて書かれた記事も残っています。また、このデザインには、螢の光を集めて勉強したとされる「晋の国の車胤(しゃいん)」のように、「自ら求めて学び励む子」になってほしいという、地域の方々の熱い期待が込められているということです。



本校出身である私がこの塩尻小学校に通っていた時も、その話は知っていました。しかし、残念ながら、螢の実物は見たことはなかったように思います。

今、たくさん見られるようになったのは、地域の方のおかげだと思いますし、この塩尻小の子どもたちが、塩尻の螢を増やすことに協力できることは大変素晴らしいことだと思います。昨年今年と、コロナウィルスの関係で、残念なことに、育てたホタルの幼虫を、直接塩尻小の子どもの手で川に放すことができませんでした。来年は、ぜひやりたいと思います。また、子どもたちが育てた幼虫が、美しい光を放つ様を見たいと思います。そのためにも、地域の方に感謝しながら、冬の間、大事に育てたいと思います。